

les nymphéas - 睡蓮-

一般社団法人 岡山日仏協会会報 No.3 2017年2月発行

おかげさまで岡山日仏協会は設立3周年を迎えました

会員の皆様、関係各位のご支援のもと、岡山日仏協会は 3 周年を迎えることができました。昨年は、皆様のご参加により大盛況に終わったイベントの数々に加え、フランス人留学生を囲んでの食事会を新たに企画、語学講座においても受講生の方が検定試験に合格されるなど、活動の幅が広がった一年であったように思います。本誌にはこの 1 年間の協会の活動の軌跡や会員の皆様から頂戴しました寄稿文を掲載しました。本年度の会報が、今後の日仏交流の発展に繋がれば幸いです。

1. 会長挨拶	
佐藤 理「ご挨拶〜三周年を迎えて〜」	p. 2
2. 寄稿文集(フランス文化に関するコラム)	
萩原 直幸「100年前のふらんす純愛物語」	p. 3∼p. 4
三宅 一郎「Restaurant」	p. 5
3. イベント報告 〜会員様寄稿文〜	
平井 雄策・平井 和子「『フランス人留学生を囲む会』に出席して」	p. 6∼p. 7
山本 満理子「『フランス祭~農業祭~』に参加して」	p. 8
中野 浩輔 「11月17日 ボージョレ-ヌーボーの日」	n 9
	p. 0
	p. <i>0</i>
4. フランス語学留学体験記	p. 0
	•
4. フランス語学留学体験記 岡本 智晴 「フランス語学留学体験記」	p. 10∼11
4. フランス語学留学体験記	p. 10∼11
4. フランス語学留学体験記 岡本 智晴 「フランス語学留学体験記」	p. 10∼11 p. 12∼p. 14
4. フランス語学留学体験記 岡本 智晴 「フランス語学留学体験記」 5. 活動の記録 6. 岡山日仏協会 事務局より	p. 10∼11 p. 12∼p. 14
4. フランス語学留学体験記 岡本 智晴 「フランス語学留学体験記」	p. 10∼11 p. 12∼p. 14
4. フランス語学留学体験記 岡本 智晴 「フランス語学留学体験記」 5. 活動の記録 6. 岡山日仏協会 事務局より	p. 10∼11 p. 12∼p. 14

1. 会長挨拶

■□■「ご挨拶~三周年を迎えて~」■□■

(一社) 岡山日仏協会 会長 佐藤 理

(一社) 岡山日仏協会 Association Franco-Japonaise de Okayama は、2013 年の 12 月 26 日に設立誕生、この度、丸三周年を迎える事ができました。改めて、会員の皆様のご支援に御礼申し上げさせていただきます。

昨年は、恒例にしておりますフランス語講座、「フランス祭 (農業祭)」、ボジョレー解禁 Partyに加えまして、新しいイベントとして、「フランス人留学生を囲む会」を岡山大学 社 会文化科学研究科 フランス文学 教授・准教授様のご協力のもとに、企画・開催いたしまし たが、多数の会員の皆様に、ご参加いただき、盛会のもとに会を終えることができました。

2016年の8月には、当協会設立以来、お世話になってまいりました前在京都フランス総領事様のシャルランリ・ブロソー様がご栄転され、翌9月から、ジャン・マチュー・ボネル様が着任されました。ボネル総領事様は慶応大学との交換留学を経験されており、親日家でいらっしゃると伺っており、当協会の設立三周年にもご参席下さる予定になっております。

これからも、引き続き、ボネル総領事様とも良い関係を築かせていただき、いろいろとご助言をいただきながら、会員の皆さまに楽しんでいただけます様、理事一同、力を合わせて協会を運営してまいりたいと思っております。どうぞ、当協会への末長い、皆様のご参加・ご支援・ご協力をお願い申し上げます。

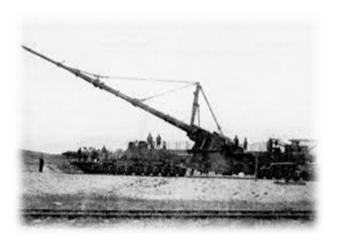
最後になりますが、2016 年 7 月 14 日にニースで発生したトラック暴走テロの犠牲者とそのご家族ならびにフランス国 民の皆様に対しまして、哀悼と連帯の意を表しまして、三周年のご挨拶とさせていただきたいと思います。

2. 寄稿文集 (フランス文化に関するコラム)

■□■100年前のふらんす純愛物語■□■

岡山大学大学院社会文化科学研究科(文学部) 准教授 萩原直幸

今から100年前、ヨーロッパは第一次世界大戦の渦中に あった。1914年6月のサラエボ事件に端を発したこの戦争 は、当初クリスマスまでには終結すると思われていたが、 長期化して停戦まで4年余もの歳月を費やした(今日でも 11月11日は「休戦記念日」という祭日として残っており、 毎年、パリの凱旋門下の無名戦士の墓に花が手向けられ る)。フランスは連合国として同盟国側の隣国ドイツと対 峙した。前線の兵士たちは塹壕(トレンチ)に立て籠もり、 彼らが身に着けていたコートがトレンチコートの発祥と なる。連合国イギリスはドイツのツェッペリン飛行船やゴ ータ爆撃機による空爆に晒され、フランスもドイツの巨大 な列車砲(首都パリ攻撃のために開発された射程距離が 120km 以上もあるクルップ砲)の砲撃を受けるなど、銃後 の一般市民にも無数の死傷者を出す総力戦となった。連合 国側のルーマニアはドイツに占領され、穀物の強制徴発に よって、飢餓と病気により 40 万人の非戦闘員が亡くなっ たという(京都大学人文科学研究所スタッフによる『現代 の起点 第一次世界大戦』(岩波書店)参照)。



このような時代状況を背景に、フィクションの世界ではあるが、マルタン・デュ・ガールの大河小説『チボー家の人々』の主人公のひとりジャックは命を落とす。19世紀末からの華やかなベル・エポックの時代を描いたプルーストの『失われた時を求めて』においても、最終巻「見出され

た時」にはこの戦争が影を落としている(例えば語り手の友人サン=ルーの戦死)。戦争継続に反対したロマン・ロラン(インド独立の父にして非暴力主義者のガンジーとも親交を結ぶ)は、フランスの「愛国者」たちから「非国民」呼ばわりされたが、『ジャン・クリストフ』等の作品が評価されて 1915 年度のノーベル文学賞を受賞した。彼は1918年にパリで起きたある事件(ネタバレになるので詳細は伏せておく)に心を痛め、『ピエールとリュス』という小説を書いた。



このささやかな物語は1918年1月30日の水曜日から3月29日の聖金曜日までの出来事を描いている。18歳のピエールは召集令状を受け取り、6か月後には入隊しなければならない。彼はパリのぎゅうぎゅう詰めのメトロの中でリュスという女の子と出会う。彼女の母親は夫を病気で亡くし、軍需工場で働いていた。娘も描いた絵を売って生活費の足しにしている。自分の肖像画を描いてくれるよう頼むピエール。戦火の中、二人は幼い愛をはぐくんでゆく。貧しさに喘ぎ、戦時という非常時にあって乱れた生活を送る母親に憐れみと同時に反感を覚え、ピエールの求めに恥じらいを見せるリュス(ジッドの名作『狭き門』のヒロイン、アリサを連想させる)。復活祭までは清らかなままで

いようと誓うのであった・・・ (敬虔なキリスト教徒にとって、謝肉祭が過ぎた後、イエスの受難と復活祭に先立つ四旬節はいろいろな意味で節制・禁欲の季節である。フランスの学生食堂では金曜日には肉料理ではなくもっぱら魚料理が出されていた)。



1950 (昭和 25) 年に封切られた『また逢う日まで』(今井正監督、岡田英次・久我美子主演) はこの小説を翻案した映画である。とりわけガラス越しのキスシーンは印象的だ (岡田英次といえば、マルグリット・デュラスがシナリオを書き、アラン・レネが監督を務めた日仏合作映画『二十四時間の情事』(原題『ヒロシマ・モナムール』(1959 (昭和 34) 年)でエマニュエル・リヴァと共演し、フランス語で「君はヒロシマで何も見ていない」等のセリフを言っている)。

さて、この小説の新しい翻訳が昨年、鳥影社から出版された。訳者の三木原浩史氏は歌の文化史の研究が専門で『シャンソンのエチュード』(彩流社)等、著書多数。私も属しているシャンソン研究会の初代会長であったよしみで、2015年度フランス語フランス文学会中国・四国支部大会が岡山大学で開催された際、特別講演をお願いした。

一般にも公開し、岡山日仏協会のホームページでアナウンスしていただいたところ、聴講に来た会員の方もおられた。今回、三木原氏は卒論と修論で取り組んだロマン・ロランの生誕 150 年にあたり、この翻訳を志されたとのことである。第一部は作品の翻訳、第二部は詳細な作品解説という構成となっている。

なお、私は勤務校の岡山大学文学部で、2017 (平成29) 年度3,4学期(昔風に言うと後期、10月から2月まで) 木曜5,6限目(14:00~16:10)にこの作品を原書で講 読することにしている(岡山大学は2016(平成28)年度 から60分授業・4学期制に移行した)。岡山日仏協会でも フランス語講座の中級クラスを開設して、何か読み物が読 めるようになるとよいのであるが、とりあえず、岡山大に は「科目等履修生」という制度があり、延味教授やフラン ス人教師の授業も含めて、社会人の方の聴講が可能となっ ている。ご関心のある方は大学のホームページでシラバス (講義概要)を検索し、事務に問い合わせてみられたい(例 年、「前期」については2月、「後期」に関しては7月ごろ 申し込み締め切り)。

現在、EU はテロ、移民、極右政党の躍進、Brexit等の問題により存続の危機にあるが、第二次世界大戦を経て、フランスとドイツをはじめ、もう二度と隣国同士で戦火を交えてはならない、という結成当初の精神を忘れないでほしいものである。

■□■ 「Restaurant」 ■□■

(一社) 岡山日仏協会 理事 三宅一郎

ファミリーレストラン、高級レストラン、はたまたシーフードレストラン…などなど日常なにげなく使うレストランという言葉。1765年のパリで生まれたとされるこの「レストラン」という言葉ですが、あなたはその語源をご存知ですか?

restaurant (レストラン)とはフランス語で「回復させる」を意味する動詞の restaurer (レストラーレ)が語源となり、一説によれば 1765 年当時に、ブイヨン (牛や鶏がらを煮出して作るスープ)が元気を回復させる食べ物として「レストラン」と名付けられ売り出されたのがきっかけで、これを出す飲食店をレストランと呼ぶようになったとされています。その他諸説あるそうですが、そのどれにも共通するキーワードが「回復」という文字。

気力、体力を回復させるという意味の言葉が「レストラン」 として定着したのには、レストランという場所に食事の美味しさだけを求めたものではないからなのかもしれません。

一昨年、私は念願だったフランスに旅することが出来ました。初めて見るパリの街はたくさんの彫刻で溢れ、映像で見ていたそれよりも美しく、まるで街全体が美術館のようでした。世界の中でも、もっとも美しい街の一つと言われるのにも納得です。

そしてそのパリでは何軒かのレストランに訪れました。 そこで驚かされたのは、その味はもちろんのこと、その場 の雰囲気でありサービスでした。居心地の良い雰囲気の中 でギャルソンと呼ばれるウェイターの方々が料理を提供 してくれます。料理についての説明は細部まで詳しく、シ ェフとのコミュニケーションが行き届いているのがよく わかりました。中には料理の仕上げを客の目の前でおこな う事もあります。シェフからの信頼が無ければ絶対に無理 でしょう。

その味、その雰囲気、そのサービスがとても心地よく、 まさに旅に疲れた私の気力、体力を回復させてくれました。 ちょっと話がそれますが、私の仕事である寿司屋は調理とサービスを一人で行いますので世界的に言えばめずらしいスタイルのレストランということになるでしょう。それだけにその場の雰囲気をつくるのは主人であり、その人柄や立ち居振る舞いが大きくその店の居心地を左右することになります。私といたしましてもお客の皆様にご満足頂ける店づくりに邁進して参りたいと思っております。

いやいや私事はさておき、これからも皆様はいろんなレストランにお出掛けになることでしょう。その玄関からのアプローチや店内を飾る装飾品等のしつらえ、スタッフの表情やサービスに少しだけ目を向けてみてください。目の前のお料理だけでない満足感を味わえるかもしれません。そして、そこではきっと日々の仕事や生活で疲れたあなたの身体を元気に回復させてくれるはずです。



3. イベント報告 ~会員様寄稿文~

■□■「フランス人留学生を囲む会」に出席して■□■

岡山日仏協会 会員 平井雄策 平井和子

岡山日仏協会のイベントの一環として、「フランス人留学生を囲む会」が2016年5月25日にイタリアンの「イルブルスケッタ」で開催されました。メンバーは岡山大学に留学しているフランスの学生や研究員、それに岡山大学のフランス語の延味先生、萩原先生でした。日本側はフランス人との交歓を楽しみにしている岡山日仏協会の会員と岡山日仏協会主催のフランス語講座の受講生でした。

私の妻は、岡山日仏協会のフランス語講座が開催をされると、即座に受講生となり、それを機に、フランス語を学んでいます。私はフランス語も全くダメで、メルシー、ボンジュール、サヴァしか喋れませんし、耳は何を聞いてもわかりません。ただ、フランスの女性がフランス語を流暢に話すのは、大変心地よく、音楽の流れのように、うっとりして聞くことができます。美味しい料理とワイン、そしてフランス人女性のしゃべるフランス語の魅力に釣られ、笑顔と頷きだけで、場を楽しく過ごせるかもしれないと思い、参加することにしました。

最初は見知らぬ人ばかりの中、話すこともできないので、緊張感いっぱいでした。同席は妻、萩原先生、フランスの女子留学生と男子研究員。出席者の自己紹介に入り、フランスの留学生は日本語で自己紹介をする。日本語につまる人もいるし、うまい人もいる。日本のアニメとかコミック文化に興味を持っている人もいる。みんな目的を持ってきているのに感心する。自己主張の仕方、しゃべり方などを見て、フランス人は少し控えめで、シャイな人が多いのかなとも感じられました。

出身大学はボルドーのボルドー・モンテーニュ大学が多い、アルザスのストラスブール大学もある。ラッキー、共にワインの産地だ、そして好きなモンテーニュの名前がついてる大学、少しは話題があるぞ。

ミシェル・ド・モンテーニュはボルドー近郊のモンテーニュ城に生まれ、ユグノー(宗教)戦争の真っただ中、ボルドー市長を務める。ブルボン王朝の創始者アンリ4世に政権参加を誘われるが、断る。後年、シャトーモンテーニュに隠棲し、塔の中で「エセー」を執筆、深い思索に這入りこむ。わたしは何を知っているだろうか?(Que sais-je? クセジュ)で有名。一族はシャトーモンテーニュのワインも作っていて、僕も飲んだこともありますが、モンテーニュほどグレートではない印象でした。

ボルドー大学の女子留学生に、得意げに「ワインは何を飲まれますか」と尋ねます。彼女は、「あまり飲まないけど、ピノーを少し」と。ピノー?、ボルドーでピノ(ノワール)、おかしいぞ。「ブルゴーニュではないのですか」。「いえ、ピノーです。」あれー、調子くるうぞ、僕の知らないワインだ。どう言おうか。

不信そうな僕の顔を見て、萩原先生はボルドーでピノーも飲みますと教えてくださいました。後で調べると、未発酵のぶどう果汁にコニャックを添加し、数年の熟成を経てなじませる酒精強化ワインの一種。ボルドーの近くのブランデーで有名なコニャックで作られ、食前酒や食後酒として利用される。現代のフランスの若い人は、渋みのある本命のワインよりも、口当たりの良いものを好むのかな。ものは試し、一度取り寄せて飲みたいものです。

ボルドー・モンテーニュ大学はボルドーの近郊、ペサックにあるとのこと。ペサックといえばあのシャトー・オーブリオンの村です。やはり縁がありますね。また、ボルドー大学には、世界のワイン好きが憧れる、醸造学部があり(ボルドー第2大学醸造学部)、醸造学の他に、付属の

デギュスタシオンの講座もあります。デギュスタシオン。なんだか格好の良い響きですが、英語で言えば「テイスティング」 つまりは利き酒です。利き酒までボルドー大学では教えてくれるの、それほど、フランスはワインに力を入れているのですね。

もう一人の隣の人はギョームさん。イギリスではウイ リアム、ドイツではヴィルヘルムと言われ、英国王とかド イツ皇帝の名前です。日本人には、そのニュアンスが伝わ りにくい偉大な人の名前です。イギリス人の友達のウイリ アムは、最初ウイリアムズと間違って呼ばれて、ちょっと 戸惑った顔をしました。ギョーム・ブーショーさんはパリ 生まれで、6歳からロレーヌ地域のゴルベで育ち、ストラ スブール大学に通う。大変繊細でシャイな方です。哲学と 美学の結合を勉強しているとのこと。哲学では、マルクス 主義に幻滅し、サルトルとは決別し、「知覚の現象学」を 著したモーリス・メルロ=ポンティ。美学ではセザンヌの 絵画が好きとのこと。その融合とは、見えるものと見えな いものとは、絵と知覚の方法 とは、等々難解ですね。日 本語も上手、すごく博学で、共通の話題もあり、フランス 事情をいろいろ教えてくれました。分からないときは、隣 の席の萩原先生の通訳のおかげで、表面的な会話だけでな く、僕の理解できる程度の深さで、話すこともでき、その 後妻の友達にもなっています。

ストラスブール大学のあるアルザスは、アルフォンス・ドーデの短編小説「最後の授業」にもあるように、何回も、戦争によりドイツ領であったり、フランス領であったりします。言語はフランス語も、ドイツ語も話し、アルザス方言語もあるそうです。

アルザスワインはフランスワインですが、ぶどうの品種、

ボトルの形ではドイツワインに近く、ライン川の左岸にあり、ドイツのラインワインの上流に位置します。ドイツのシュバイツアー博士はドイツ帝国領時代のアルザス出身です。アルザス人であり、ドイツ人でもあり、フランス人でもあります。多重性の社会なのです。アルザスはフランスおよびドイツの辺境であるが、欧州連合(EU)の議事堂があり、EUの「中心」地域にもなっています。ボルドーも一時はイギリス領であったこともあり、そのおかげでボルドーワインは海外に流通し「世界のワイン」になれた一因でもあります。

ヨーロッパの国境は一定してなく、時代とともに変わる。 国籍も変わる。海に囲まれ、国境、国籍が一定している日本と比べ、思考回路、国際感覚が違うのは当たり前と思います。多様性までは理解できるが、その多重性はまだまだ理解の外ではないのかなと思う。日本も戦争を起こして、中国、朝鮮半島との関係があまりうまくいっていませんが、逆に戦争の苦い経験と、その悲惨さを二度と繰り返さないという深い反省により、真摯に平和を追求する強い意志。それにより、東アジアの連帯がうまくいかないものかと考えます。

今回の「フランス人留学生を囲む会」は、人と人との 交流の点でも、国際化を考える意味でも、大変有益で、楽 しい会合でした。

最後に、この会を主催してくださった日仏協会の佐藤会 長、水田副会長とスタッフの方、お世話係りの大森さん、 池田さん、岡山大学の延味先生、萩原先生に深く感謝しま す。大変ありがとうございました。

以上



■□■『フランス祭~農業祭~』に参加して■□■

岡山日仏協会 会員 山本満理子

7月24日、岡山日仏協会のフランス祭に参加させていただきました。妊娠発覚から大好きなワインを控え、産後もなんとなくお酒の席から足が遠くなっていた私。そんな私にとって産後初めての華やかなパーティー! 少し気後れしながらも、久しぶりにお会いする方々のお顔を思い浮かべ、ワクワクしながら会場に向かいました。

会場はルネスホール、自身でもイベントをしたり、思い出深い場所一。素敵な空間に、大好きなものが大集合といった感じです。佐藤先生や八木さんがセレクトされた素晴らしいワイン、今大注目のTETTA高橋さんのワイン、お酒のいろはを教えていただいた天麩羅たかはしの大将セレクトのワインに負けない日本酒、岡山に帰ってきてから通い続けているバー・パガニーニ軸原さんのカクテル、大好物のシェリー。フードには、これまた大好きなKABLAの左達さんの中華に、岡山を代表するお寿司の名店・松寿司さん、もうずっと前からお取り寄せさせていただいている吉田牧場のチーズを使ったお料理・・・とほんとうに盛りだくさん!始まるのが待ち遠しくて仕方ありません。

会は佐藤先生の開会のご挨拶でスタート。パリ同時多発テロの犠牲者の方々への黙祷も捧げられました。萩原先生のご講演は、久しぶりに大学の講義を受けているかのようにとても知的ながら、とても美味しいお話で、この後に控えている素晴らしいワインとお料理の時間がとても待ち遠しくなりました。乾杯の後は、まさにフランスと日本の食文化が融合した華やかなパーティー。久しぶりに会うお友達と何度も何度も乾杯をし、まさかお目にかかれると思っていなかった方々との再会にも心踊らせ、こうして書きながら今思い出しても、本当に幸せな時間でした。

このような素敵な会が岡山で行われていることを、岡 山に住む者としてとても誇らしく思います。佐藤先生を はじめ、お世話になりました岡山日仏協会の皆様、本当 にありがとうございました。また次回を心待ちにしてお ります。



■□■11月17日 ボージョレ-ヌーボーの日■□■

岡山日仏協会 会員 中野浩輔

私と妻は11月17日に開催された日仏協会主催のボージョレーヌーボーの会に参加させて頂いた。

妻は数回目の参加だが、私は昨年に続いて2回目の参加となった。正直にお話をすると私は基本的にボルドーに代表される重めの赤ワインが大好きなので、軽めの新酒であるボージョレーヌーボーは今までは余り得意でなく、余り好きでも無かった。

そんな私のボージョレーに対しての概念は昨年のこの 会で大きく変化した。

「えっ!美味しいんじゃない!ボージョレーヌーボー!」 考えてみれば、私は過去はコンビニ等でボージョレ-ヌーボーを購入していた。それでは美味しいボージョレ-が飲めるはずも無かった。

今年のボージョレーも美味しかった。

佐藤先生のボージョレーに関しての蘊蓄を伺うことも 楽しく、特に今回はミラノ在住のプロのオペラ歌手柾木さ んの素晴らしい歌声と軽妙なトークを聞きながらの会は 凄く楽しい時間となった。

昨年と会場も違い、1階から上層階の宴会場へとグレードアップすると共に参加者の人数もかなり昨年より上回っていた。いつもの日仏協会に参加するメンバー以外の多くの参加者の姿もあり楽しい時間を過ごさせて頂いた。



参加者の中には、数名、数年ぶりにお会いした知り合いの方の姿もあった。お話を伺うと、ワイン好きとのこと!知らなかった。ボージョレーのワインの酔いも相まって、数年ぶりにお会いした方とも楽しい時間と、楽しい会話と、美味しいワインを堪能することができた。

本当に代表の佐藤先生を始め、日仏協会の方々にはお世話になりました。佐藤先生の言われる「ワインは人と人とを繋ぐもの?」そのことを実感できる楽しい一日でした。 本当にありがとうございました。



4. フランス語学留学体験記

■□■フランス 語学留学記■□■

岡山日仏協会 会員 岡本智晴

「日仏の年報に留学中の智晴ちゃんに寄稿して もらおうということになって」

と佐藤先生から畏れ多いお話を頂き、こんな私が 書いていいのだろうかと逡巡しながら、ただ日を 費やしてしまいました。(言い訳です)

2016年9月10日に岡山を飛び立ち、シャルル ドゴール空港に降り立って約4か月。

あっという間だったような長かったような、とて も濃密な時間を過ごしたように思います。

日本とは違う生活習慣、食事、文化、そしてフランス語。

生活していれば話せるようになる、なんて甘くは ないのがフランス語です。でも話せなくても生活 はできるので困ったものなのですが…

最初の4ヶ月間はフランス西部にあるルーアン (Rouen)という都市でホームステイをしていました。

ルーアンは「街全体が博物館」と言われているように、歴史の古い街です。ゴシック建築の代表として知られるルーアン大聖堂はクロード・モネの連作『ルーアン大聖堂』としても知られています。 今思えば、渡仏した頃は気がつけば大聖堂に行っていたように思います。

フランスでは語学学校に通っており毎日5時間、 みっちり授業。こんな生活をするのは高校生以来 なので、本当に久しぶりに「勉強をしている」気 分です。…まだまだ全然話せませんが。

毎週月曜日になると、名前は?国籍は?年齢は?職業は?時制を勉強し始めると今度は、週末は何をしていたの?次の週末は何をするの?あなたの住んでいるところは何が有名?etc···

岡山後楽園、桃太郎、きびだんご、倉敷美観地区、 大原美術館、マスカット、桃。



上記を何度説明したか思い出せません。最近は岡山も美味しいワインを作っているということを説明させて頂けるので嬉しいです。

学生のほとんどは若い世代ですが、そこはやはり 陸続き、バカンスのヨーロッパ。一週間、二週間 単位でバカンスついでに入学してくる年配の方 も少なくありません。日曜日の夜に到着して翌日 から学校、そして金曜日には車でドイツに帰ると いう強行スケジュール、中には数か月ご夫婦で学 ばれている年配の方もいらっしゃいました。10 代から70代まで同じ教室で机を並べて、昼食は 一緒にサンドイッチを頬張る光景は新鮮でした。 日本から岡山から家から出たことのない私が初 めて飛び出したのがフランス、そしてホームステ イ。

それはもう最初から色々ありました。でもホームステイをしたからこそ、得たものもたくさんあります。

ルーアン生活の後半はここはフランス、私は日本人なんだとつくづく思わされることの連続で、 12 月にはフランスの何もかもが嫌になる時期が やってきました。 長期留学をしていると誰もが陥る「3ヶ月目の憂鬱」だろうと自分を納得させながらの毎日でした。 そんな中やはりフランスと言えばワインとチーズ、そしてバカンス。

ワインという共通項で仲良くなった友人が金曜日になると毎週のように家に招いてくれ、食事を作ってくれ、一緒にワインを飲んでチーズを食べ、学校でのこと、ホームステイのことを片言の拙いフランス語で互いに話し合って…この時間があったからルーアンでの生活を無事終えることができたように思います。学校近くのスーパーには留学生のお財布に優しい、安くて美味しいフランスのワインがたくさん並んでいて、チーズも然り。そして学校の授業でgastronomieについて学ぶ機会もありました。ブルゴーニュについて学べばブルゴーニュ地方のワインを飲み、Époissesを買って食べ、アルザスロレーヌ地方について学べばアルザス地方のワインを飲み…やっぱり飲んで食べないとね、と言いつつ…重要です。

そして初めてのバカンスでは同じホストファミリーだったオランダ人女性のお宅でクリスマス休暇を過ごす機会に恵まれました。あの時期にオランダでのびのびと過ごせたのは本当にありがたい時間だったと思います。

「初めて飛び出してきた先がどうしてフランス?」

と色々な人に何度も聞かれました。自分でも「な んででしょうね?」と聞き返すぐらいです。 ただ言えることは「フランスだから来た」という こと。岡山日仏協会が縁でフランスを少し身近に 感じる機会を得、フランス語学ぶ機会に恵まれま した。それがきっかけでフランスに来たと言った ら呆れられそうですが、わたしにとったら大きな 転機であり契機でした。

昨日でルーアンでの生活を終え、いまパリで書いています。色々とあったルーアンでしたが、離れる時、パリへの電車の中での寂しさはきっとこの先も忘れられないだろうと思います。そして学校最後の日、帰りに大切な友人と寄ったスーパーでの時間、別れる際のことも。

この後留学の後半を少し南のトゥールという 街で過ごします。

きっとまた「フランスという壁」にぶつかって、腹立たしく思ったり悲しくなったりすることはたくさんあると思います。でもそれがこの国ということも知りました。その壁を乗り越えたときの嬉しさや快感(?)、この国の素晴らしいところも知ることができました。今度は「はいはい、ここはフランスですもんねー♪」と楽しみつつ、体当たりしていこうと思います。

そして無事帰国して、大好きな岡山日仏協会の 皆さんにお会いできることを楽しみにしていま す。

À bientôt!





5. 活動の記録

■□■ 2016年の活動■□■

1月 設立2周年記念パーティー

ANAクラウンプラザホテル岡山にて盛大に開催されました。在京フランス総領事シャルル=アンリ・ブロソー様による乾杯のご発声の後、和田晴子様によるピアノコンサート、と大変盛り上がったパーティとなりました。

1月 フランス語講座 I (E) 第四期 開講 (一期 全4回/水曜日 19:00~)

岡山大学大学院社会文化科学研究科教授の延味先生によるフランス語レッスン。テキストも最終課に入りました。

3月 フランス語実用会話講座 I (H) 第二期 (一期 全6回/金曜日 19:00~)

岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授の萩原先生によるフランス語レッスン。実用会話を中心としたレッスンで、生徒の皆様の意欲が益々増しているようです。

5月 フランス語初級講座 I I (E) 第一期 新規開講 (一期 全6回/水曜日 19:00~)

テキストも新たに、フランス語が初めての方、もう一度基礎から習いたい方を対象に、岡山大学大学院社会文化科学研究科教授 の延味先生によるフランス語レッスンのスタートです。

5月 フランス人留学生を囲む会

岡山大学より延味教授、萩原准教授、フランス人留学生7名を迎え「イルブルスケッタ」にて食事会を開催。 フランスと日本の交流を肌で感じられると、参加された皆様から嬉しいお言葉を頂戴しました。



7月 「フランス祭〜農業祭〜」





日仏両国の食文化を比較しながら、音楽と共に楽しんでいただこうと企画したパーティ。岡山大学萩原准教授によるご講演、ジャズやシャンソンを聞きながら、岡山の名店の味を楽しんでいただきました。

8月 フランス語初級講座 I I (E) 第二期 開講 (一期 全6回/水曜日 19:00~)

延味先生によるフランス語レッスン。2016年11月のフランス語検定合格を目標にする生徒様もいらっしゃり、学習意欲も高まっているようです。

11月 フランス語初級講座 I I (E) 第三期 開講 (一期 全4回/水曜日 19:00~)

5月にスタートした延味先生のフランス語レッスンが今期でテキスト終了になりました。フランス語検定 4 級合格 者も数名いらっしゃり、受講生の方々の努力が実を結んだのだと思います。

11月 「Beaujolais Nouveau 2017」解禁パーティー

昨年の大盛況を受け、会場を広く定員を増やして行ったボジョレーヌーヴォー解禁パーティ。 柾木様の迫力あるオペラと共に、届きたてのヌーヴォーをお楽しみいただきました。



会報に掲載する「フランスに関するコラム」の執筆者、情報提供者を募集しています。色々な角度から多様な 話題、情報などを誌面にて紹介できたらと思います。詳しくは事務局までEメールにてお問い合わせください。

6. 岡山日仏協会 事務局より

【Best Wine Tasted in 2016】 (岡山日仏協会会長の今年味わった一番のワイン 連載 #3)

Puligny Montrachet les Enseignieres 2005' / Domaine Coche-Dury

アロマティックで複雑性に満ち、ミネラル感も充分。コルトン・シャルルマーニュを思わせ る骨格の強さも感じる。全体として酸のバランスが素晴らしい事も加わり、余韻は長く、1~2 時間かけても、落ちるどころか、香・味わいともに深みを増してきた素晴らしい WINE でし た。



By Osamu.SATO

<前年度第3回理事会・社員総会報告>

日時:2016年1月24日 出席者:(理事)佐藤、水田、矢澤、高橋、三宅、(監事)大倉

議題1:平成26年度事業報告…… 承認 議題2:平成26年度決算報告…… 承認

議題3:平成27年度事業計画…… 承認 議題4:平成27年度収支予算…… 承認

<編集後記 >

日仏協会の事務局に携わらせて頂いてから、様々な方との出会いがありました。事務局のお手伝いをしていなけ れば恐らく一生面識を得ることのない方々ばかりです。このような機会を与えて下さり、負担感よりも、やりが いを感じております。人間社会にあって、人間関係は大切なことであり、人との出会いはかけがえのない財産で す。この出会いに感謝しながら、今後の糧としていきたいと思います。(事務局 池田瑠美子)

今年も新たな一年が始まりました。会員の皆様はもちろんのこと、そのご友人の方々にもお声をかけてくださり、 年々、岡山日仏協会としての活動が深く、大きくなっていくことに感謝しております。皆様のご要望やアドバイ スがございましたら、お気軽に事務局までご連絡ください。(事務局 大森麻友)

岡山日仏協会では、随時会員を募集しております。お申し込み、お問い合わせは Eメール、WEB サイトから。 2017年も様々なフランスに関するイベントの実施を計画中です。イベントについては詳細が決まり次第facebook、 ホームページ、メール等でお知らせしております。ご興味に沿うものがありましたら是非ともご参加ください。



les nymphéas - 睡蓮 - Feb. 2017 No.3

発行:-般社団法人岡山日仏協会 岡山県岡山市北区富田町2丁目13-12 コートサイドビル4F

(ご連絡いただく場合は原則として Eメール、HPのメールフォームをご利用下さい)